

声明

総長選考に先立ち、総長選考会議の刷新を求める

北海道大学は7月10日、次の総長選考を7月中に開始すると発表した。今般の総長選考は名和前総長の解任という事態を受けて行なわれるものであり、総長選考会議規程第9条(3)の「事故等により総長が欠員となった場合」に該当し、10条第3号の「(前条第3項に)該当する場合にあっては速やかに、これを行うものとする」に則ったものと見られる。

しかし、現在進められようとしている総長選考は、その原因となった「解任の申し出」およびその妥当性が十分学内に説明されておらず、意向投票有権者の中には総長解任に疑問を持つ者も少なくない。このような中で、総長選考会議の体制がほとんど変わらないまま同じ議長の下で拙速に次の総長選考を行なうことは、極めて正当性を欠いている。

解任された総長は、かつて総長選考会議によって選考されたのであり、選考会議は結果責任を取って然るべきである。自らの選考結果を自己否定した選考会議が、次の総長選考も行なうことは学内構成員からも、社会一般からも到底支持されえない。

私たちは、総長選考に先立ち、総長選考会議の刷新を求める。

2020年7月13日

北海道大学教職員組合